

高木復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成27年12月25日(金) 16:38～16:42 於) 檜葉遠隔技術開発センター)

1. 発言要旨

本日は、いわき市にてふるさと豊間復興協議会の皆さんと意見交換を行い、仮設商店街の視察を行いました。また、檜葉遠隔技術開発センターの視察を行いました。いわき市のふるさと豊間復興協議会の皆さんとの意見交換では、豊間区のコミュニティを維持しながら、地域が自ら復興プランをつくっていきこうと協議会を立ち上げて、住民にワークショップを開催し、復興まちづくりを進めていること、あるいは自分たちで生活サポートセンターや仮設商店街を立ち上げて運営し、区の住民の生活再建を支え合っているということ、そしてまた、行政と連携をしながら区画整理を進めるとともに、産業再生、交流拠点や保育所から小中学校までの一貫教育の環境整備を進めて未来をつくろうとしていること、引き続き国等の支援をお願いしたいということ、そういうお話をいただきました。

私からは、コミュニティを維持していこうという強い思いを持って、地域の皆さんが協働してまちづくりを行っているのは大変素晴らしいと、復興まちづくりのモデルであるという話もさせていただきました。

御苦勞は多いと思いますが、引き続きしっかりと支援をさせていただくという話もさせていただきました。

また、ここ檜葉遠隔技術開発センターでは、研究管理棟が10月に開所し、試験棟の整備も順調に進んでいると感じました。

浜通りの復興に少しでも貢献していきたいという話があって、溶けた燃料デブリの取り出し方法について検討が進んでおり、実物大の試験装置、ロボットの動きを計測する装置、バーチャル・リアリティシステムなどの説明を受けました。

私からは、本センターを核として、関連産業、新産業の集積が進んで、復興を大きく前進させることを期待するという話をさせていただいたところでございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) これまで就任以来、被災地、福島を初め様々な場所を訪問されてきましたけれども、恐らくもう年内はこれで最後だと思いますが、まとめでの所感をお願いします。

(答) 2か月と半ぐらい経つんでありますけれども、もとより「現場主義」という思いを持って、たびたび被災地を訪問させていただきました。

やはり復興を進めるに当たって、復興は進んではきております。復興が進めばまた進んだで、新たな課題が出てくるということも垣間見ることができましたし、しっかりといわゆる被災地に寄り添った形で復興を進めていくと

いうことが、この２か月と半でしっかり分かったということかというふうに思います。

いよいよ来年の3.11で丸５年、集中復興期間から、いよいよ復興創生期間に入るわけであります。岩手、宮城、福島とそれぞれ状況は違いますけれども、それぞれの状況に応じた支援の仕方というものがあるだろうというふうに思いますので、そうしたことをしっかりと踏まえてこれからも私の仕事、責任というものを果たしていきたいと、そういうふうに思っております。

(問) 今日、国勢調査の結果が発表されまして、全町避難している場所は人口ゼロということで、地方交付税の算定に大きく影響してくるわけですが、大臣としては、この交付税の措置をどう考えていますか。

(答) これにつきましては、これまでもそうでありますけれども、総務省がやる仕事でありますので、こういった現状、総務省がしっかりと対応をしてくれるように、私のほうからこれまでも言っておりますけれども、これからもそうしたことを総務省に働きかけていきたいというふうに思っております。

(以 上)